

三菱UFJフィナンシャル・グループ

2007年度第3四半期業績の概要
(2007年4月～2007年12月)

2008年1月31日

本書には、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(以下「当社」という)およびそのグループ会社(以下「当グループ」という)に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。

これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述または前提(仮定)は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。

このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、アニュアルレポートをご参照下さい。

なお、本書における将来情報に関する記述は上記のとおり本書の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

また、本書に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本書の計数は日本会計基準ベースの数値を使用しています。

<本資料における計数の定義>



連結

PL項目 05年度下期以降の計数は、三菱UFJフィナンシャル・グループ(連結)
05年度上期以前の計数は、三菱東京フィナンシャル・グループ(連結)とUFJホールディングス(連結)の単純合算

BS項目 06年3月末以降の計数は、三菱UFJフィナンシャル・グループ(連結)
05年9月末以前の計数は、三菱東京フィナンシャル・グループ(連結)とUFJホールディングス(連結)の単純合算

単体合算※

PL項目 06年度上期以降の計数は、三菱東京UFJ銀行(単体)と三菱UFJ信託銀行(単体)の単純合算
05年度下期の計数は、三菱東京UFJ銀行(単体)、UFJ銀行(単体、10~12月)、三菱UFJ信託銀行(単体)の単純合算
05年度上期以前の計数は、東京三菱銀行(単体)、UFJ銀行(単体)、三菱信託銀行(単体)およびUFJ信託銀行(単体)の単純合算

BS項目 06年3月末以降の計数は、三菱東京UFJ銀行(単体)と三菱UFJ信託銀行(単体)の単純合算
05年3月末の計数は、東京三菱銀行(単体)、UFJ銀行(単体)、三菱信託銀行(単体)およびUFJ信託銀行(単体)の単純合算

※特に断りのない限り、分離子会社を含まない

- 2007年度第3四半期業績サマリー (P/L) 4
- 国内預貸金利回りの状況 5
- 2007年度第3四半期業績サマリー (B/S) 6
- 貸出金・国内預金 7
- 貸出資産の状況 8
- サブプライム関連投資及びSIV投資 9
- 保有有価証券、証券化商品等の状況 10

2007年度第3四半期業績サマリー(P/L)

【連結】



(単位:億円)

●業務粗利益は前年同期比▲1,273億円

■資金利益は前年同期比ほぼ横ばい
～預貸金利回り差改善により単体合算
資金利益は前年同期比317億円増加

■投資銀行収益等の減少により役務取引等
利益は減少

■その他業務利益にSIVの減損損失など
約550億円を計上

●営業費は前年同期比+385億円

■システム関連経費、コンプライアンス態勢
強化等を主因に増加

■経費率 61.5%(前年比+4.3ポイント)
単体経費率 58.5%(前年比+4.1ポイント)

●四半期純利益は3,146億円

●与信関係費用は3,344億円の費用を計上

■貸倒引当金はネットで戻入れから繰入れへ

<連結P/L>

	06年度第3四半期 (06/4~12月)	07年度第3四半期 (07/4~12月)	増減
1 業務粗利益 (信託勘定償却前)	26,872	25,599	▲1,273
2 うち資金利益	13,798	13,859	61
3 うち役務取引等利益	8,399	7,961	▲438
4 うち特定取引利益	2,079	2,567	488
5 うちその他業務利益	1,463	89	▲1,374
6 営業費	15,359	15,745	385
7 実質業務純益	11,513	9,854	▲1,659
8 臨時損益	▲1,872	▲3,317	▲1,445
9 経常利益	9,639	6,650	▲2,989
10 特別損益	1,862	▲329	▲2,192
11 四半期純利益	6,905	3,146	▲3,758
12 与信関係費用*1	67	▲3,344	▲3,412
13 与信関係費用*1 (単体合算)	1,144	▲1,867	▲3,012

(▲は費用)

*1 与信関係費用=信託勘定与信関係費用(業務粗利益内)+一般貸倒引当金繰入額+
与信関係費用(臨時損益内)+貸倒引当金戻入益

<ご参考>

14 一株あたり利益(千円)*2	67.2	29.8	▲37.4
15 連結ROE *3	15.9%	6.5%	▲9.3 ポイント

*2 07年度第3四半期は千株あたり

*3 ROEの分母には土地再評価差額金、株式等評価差額金を含まず

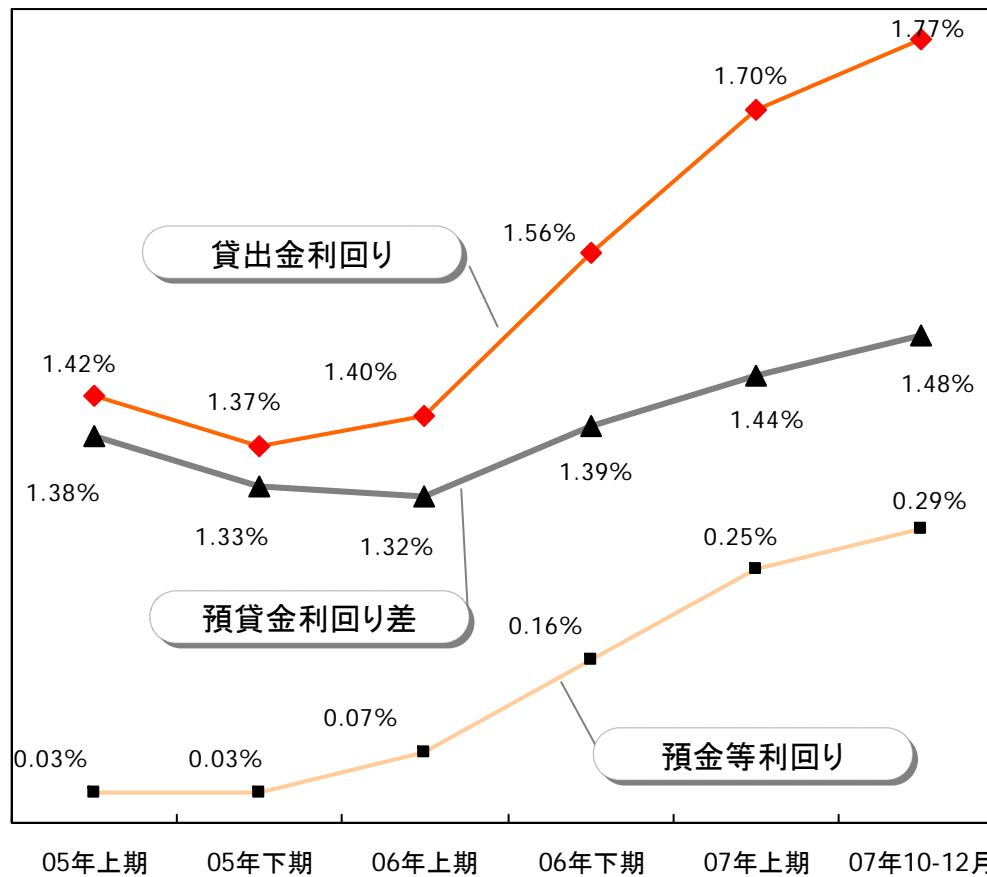
国内預貸金利回りの状況

【単体合算】



● 預貸金利回り差の改善傾向が継続

国内預貸金利回りの推移(単体合算)



【金利改定状況】

- 2006年7月18日
普通預金金利
0.001% ⇒ 0.100%
- 2006年8月10日
短期プライムレート
1.375% ⇒ 1.625%
- 2006年10月1日
新規住宅ローン変動金利
2.375% ⇒ 2.625%
- 2007年1月1日
既存住宅ローン変動金利
2.375% ⇒ 2.625%
- 2007年2月26日
普通預金金利
0.100% ⇒ 0.200%
- 2007年3月20日
短期プライムレート
1.625% ⇒ 1.875%
- 2007年7月1日
既存住宅ローン変動金利
2.625% ⇒ 2.875%
- 2007年10月1日
新規住宅ローン変動金利
2.625% ⇒ 2.875%

2007年度第3四半期業績サマリー(B/S)

【連結】



- **貸出金は07/3末比3.6兆円増加**
 - 海外貸出は大幅に増加
 - 住宅ローンは証券化により微減
- **預金は07/3末比2.9兆円増加**
 - 個人預金の増勢持続
- **開示債権は07/3末比▲1,894億円と引続き減少**
- **その他有価証券の含み益は株式を中心に1兆円減少**

<連結B/S>

(単位:億円)

	07年 3月末	07年 12月末	増減	07年 9月末
1 貸出金(銀行勘定+信託勘定) [貸出金(銀行勘定)]	851,507 [848,319]	887,837 [885,074]	36,329 [36,755]	870,435 [867,510]
2 うち住宅ローン ^{*1*2}	171,901	170,514	▲1,386	170,132
3 うち海外貸出 ^{*3}	145,277	179,021	33,743	169,434
4 有価証券(銀行勘定)	482,076	436,180	▲45,895	429,902
5 預金	1,187,086	1,216,107	29,020	1,176,308
6 うち個人預金(国内店)	608,583	628,842	20,259	614,087
7 金融再生法開示債権 ^{*1}	13,258	11,364	▲1,894	11,794
8 開示債権比率 ^{*1}	1.46%	1.21%	▲0.25 ポイント	1.29%
9 その他有価証券評価差額	33,842	23,308	▲10,533	29,807

*1 単体合算+信託勘定

*2 07年4-12月の証券化実績:約0.2兆円

*3 海外支店+ユニオン・バンク・コーポレーション+BTMU(中国)

貸出金・国内預金

【連結】



●貸出金残高は88.7兆円に増加
(07/3比+3.6兆円、07/9比+1.7兆円)

<07/9比増減の主要因>

- 海外貸出*1 +0.9兆円
- 国内大・中堅企業向け貸出 +0.9兆円

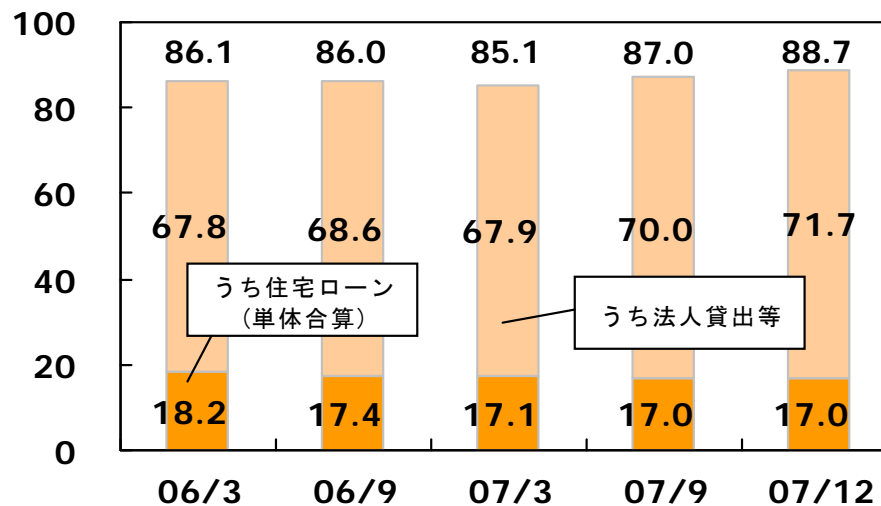
*1 海外支店+ユニオン・バンカル・コーポレーション+BTMU（中国）

●国内店預金残高100.8兆円
(07/3比▲0.8兆円、07/9比+1兆円)

<07/9比増減の主要因>

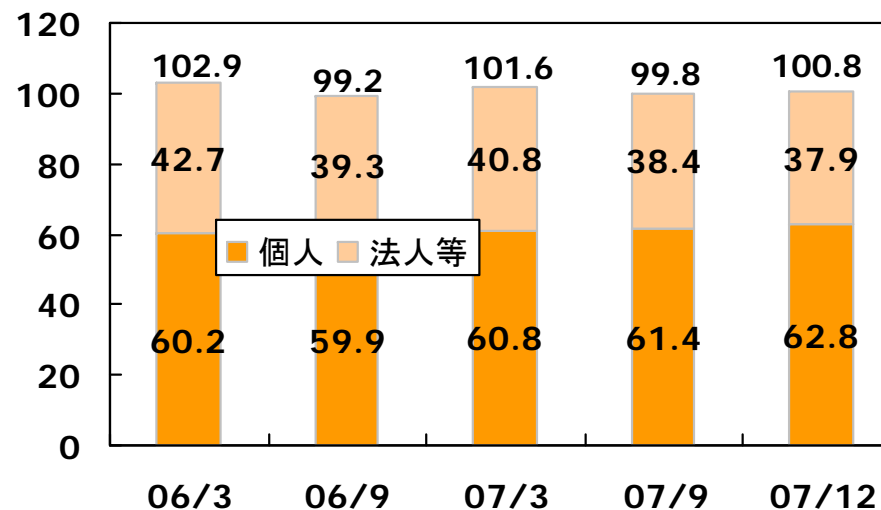
- 個人預金 +1.4兆円
- 法人等預金 ▲0.4兆円

(兆円) 連結貸出金（末残）*2



*2 銀行勘定と信託勘定の合算

(兆円) 国内店預金（末残）*3



*3 単体合算、譲渡性預金・特別国際金融取引勘定分を除く

貸出資産の状況

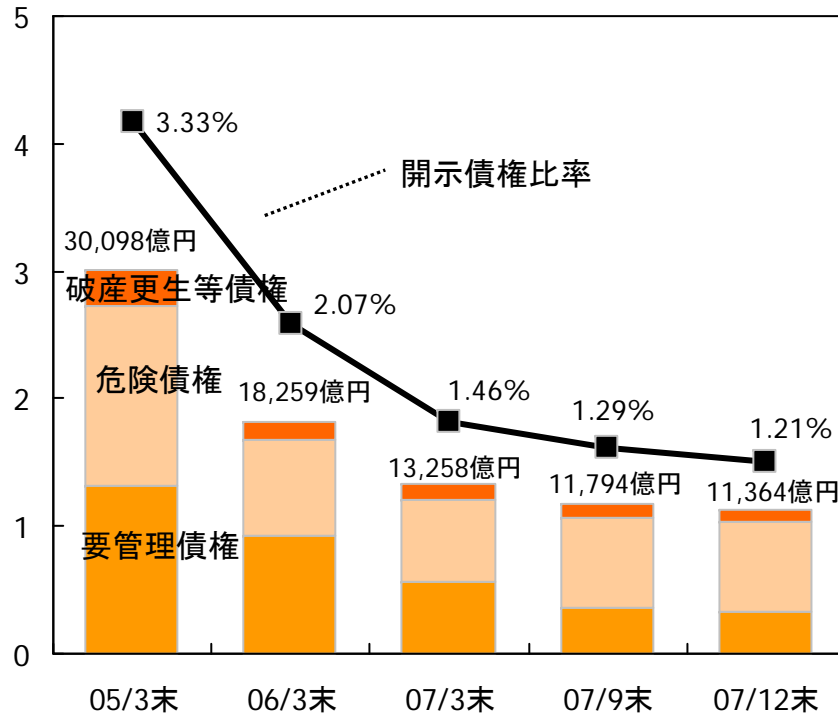
【単体合算】



- 開示債権比率は1.21%と07/9末比0.07ポイント低下
- 与信関係費用は1,867億円の費用計上

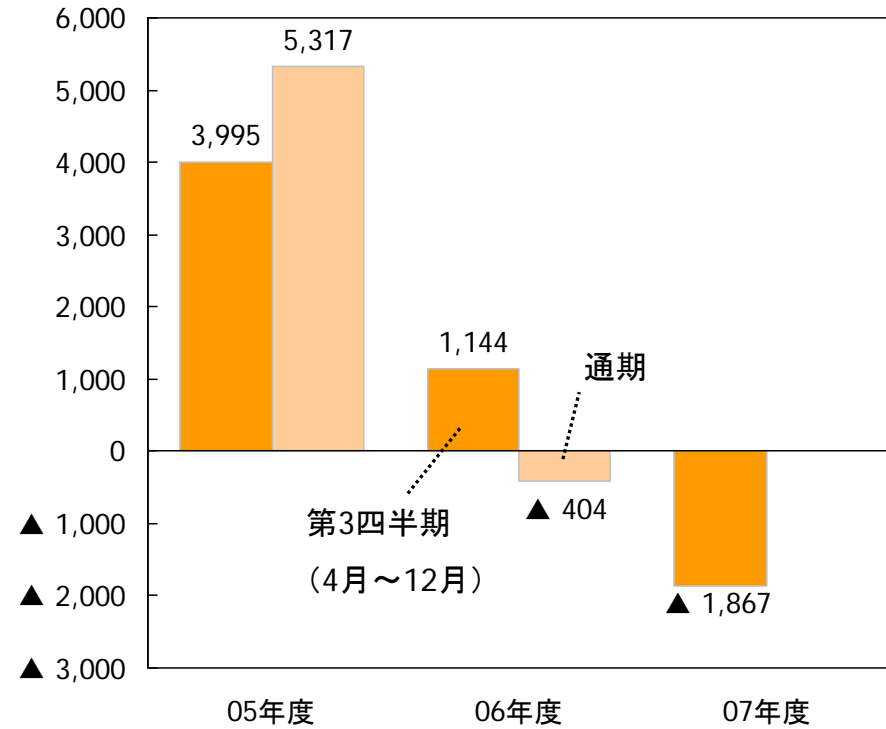
金融再生法開示債権残高

(兆円)



与信関係費用

(億円) (▲は費用を表す)



サブプライム関連投資及びSIV投資

【連結】



- サブプライム問題が損益(P/L)に与えた影響は約▲550億円

サブプライム関連投資及びSIV投資*1

(億円)

サブプライム関連投資 (除くSIV)	9月末	12月末	増減
減損 ^{*2}	約▲40	約▲90	▲50
残高(減損後)	約2,590	約2,430	▲160
評価損	約▲80	約▲300	▲220

サブプライム内包 SIV評価損	約▲120
サブプライム関連投資 (含むSIV)評価損	約▲200

(億円)

SIV投資	9月末	12月末	増減
売却損	—	約▲20	▲20
減損 ^{*2}	—	約▲440	▲440
残高(減損後)	約890	約390	▲500
評価損	約▲180	約▲10	170

(億円)

サブプライム関連+ SIV投資	9月末	12月末	増減
実現損 ^{*2}	約▲40	約▲550	▲510
評価損	約▲260	約▲310	▲50

*1 対象は、BTMU(含むUBOC)、MUTB、MUS。管理ベース

*2 実現損は売却損+減損。減損、実現損は4月からの累計値

ポイント

- 07年4月～12月期のサブプライム関連投資及びSIV投資の損益(P/L)への影響額は、SIVの減損を主因として約▲550億円の損失
- 07年12月末での同評価損は、約▲310億円
- サブプライム関連投資(除くSIV)の残高は、償還・売却等により減少し、約2,430億円に(9月末比約▲160億円)。一次証券化商品が約98%を占め、約96%がAAA格(ABS-CDO等の二次証券化商品は僅少)
- SIVへの投資残高は、減損等により減少し、約390億円に(9月末比▲500億円)。

- その他有価証券の評価差額は約+2.3兆円(07/9末比▲0.6兆円)の含み益

その他有価証券の内訳

(億円)

	12月末残高	評価差額	
			07/9末比増減
合計	393,362	23,308	▲6,498
国内株式	67,761	23,869	▲6,332
国内債券	173,670	▲330	458
その他	151,930	▲230	▲624
外国株式	2,803	1,445	131
外国債券	92,955	▲617	253
その他	56,170	▲1,058	▲1,009

証券化商品等^{*1}の概要

- 証券化商品は、預金超過のB/Sを背景に、投資対象の多様化、クレジットポートフォリオ全体の分散・最適化等を目的として保有
- 証券化商品等は、全てバンキング勘定で保有
- 証券化商品等残高は、CLO投資の増加を主因に約3.95兆円に(9月末比+約0.3兆円)、B/S全体に占める割合は2.0%
- 一次証券化商品は、全体の約98%
- AAA格が約8割
- モノライン(金融保証会社)^{*2}保証付きサブプライム関連商品はほぼゼロ。CLO等でモノライン保証付き証券化商品を保有するが、これらはほとんどが保証無しでもAAA格。なお、モノラインへの与信及びクレジットデリバティブ取引はない
- 時価は、ブルーンバーグ等が提供する業者価格を使用して評価(自社モデルを使用して評価しているものはない)

*1 対象はBTMU(含むUBOC)、MUTB、MUS。管理ベース、減損後。除くエージェンシー債・仕組債等

*2 BTMU(含むUBOC)、MUTB、MUSを対象に、大手モノライン8社(MBIA、Ambac、FSA、FGIC、SCA、Assured Guaranty、CIFG、ACA)の保証を集計